



Sendai Creative Cluster Consortium

仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム

2007.2.8 thu.
仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム設立記念シンポジウム開催!
www.sendai-c3.jp

Concept

趣旨

仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム

仙台市は、一定の集積が進んでいるIT産業を核として、成長著しいデジタルコンテンツやEコマース産業などの新産業の発展に力を入れてきました。今後、印刷やデザインといった既存の産業とこれらの新産業を融合させ、より付加価値の高い産業の創出を図るため、企業、団体、大学等の連携による「仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム」を設立します。

コンソーシアムの目的

この組織は、研究会やセミナー、HPによる情報発信等の活動を通じ、国等の支援制度も最大限活用しつつ、異分野の連携と融合による新製品やサービスの開発を行い、将来的にはこの分野における産業クラスターの形成を目指すものです。

Event イベント

仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム設立記念シンポジウム 2007.2.8thu.開催!

テーマ 連携と融合が拓く新時代のクリエイティブ産業

第1部

1) オープニング 主催者あいさつ

2) 記念講演

「テレビコンテンツの隆盛と新時代への展望(仮)」

講師：澤田隆治 (日本映像事業協同組合理事長)

第2部

3) セッション

「地域における創造と事業化の可能性(仮)」

a) オープニングトーク

鹿野 護

(WOW取締役・ビジュアルアートディレクター)

b) パネルディスカッション

「連携と融合が拓く新時代のクリエイティブ産業」

パネラー:

瀧田佐登子 (Mozilla Japan 代表理事)

菊地敦己 (bluemark 代表)

木村浩一郎

(アートクラフト・インターナショナル 代表取締役)

小泉彌和

(K sound design 代表取締役 兼 CEO)

モデレータ:

渡辺保史 (智財創造ラボ シニアフェロー)

各業界で活躍する注目の4人をパネラーに迎え、それぞれの特徴的な活動を話題に、連携と融合によるクリエイティブ産業の事業化への可能性を考えます。

日時・会場

2007年2月8日(木)

14時30分～17時30分

せんだいメディアテーク

1Fオープンスクエア

仙台市青葉区春日町2-1

<http://www.smt.city.sendai.jp/>



※本イベントは、独立行政法人中小企業基盤整備機構の「平成18年度地域活性化F/S事業」を活用して実施します。

Profile 講師紹介

澤田 隆治 (日本映像事業協同組合理事長)

大阪府出身、神戸大学文学部卒業。朝日放送入局後、ラジオ番組の芸芸プロデューサーを経て数多くのテレビ番組を制作。なかでも「チャラカ社員」「てなもんや三度笠」「新婚さんいらっしゃい！」など有名番組を次々に世に送り出すなど、テレビ放送の創始期から活躍。同社退社後は「東阪企画」を設立、「花王名人劇場」ほか数多くのテレビ番組を手がける。最近では帝京平成大学にて教鞭を執るなど、後進の指導にも活躍している。

瀧田 佐登子 (Mozilla Japan 代表理事)

Mozilla Japanは、オープンソースのwebブラウザ「Firefox」やメールソフト「Thunderbird」の日本語版を供給している。多くのプログラマの連携によってソースの開発、実装、検証などが支えられており、大手ブラウザに比べ高いセキュリティやカスタマイズ性を魅力に、インターネットのパワー・ユーザーからの支持を着実に拡大している。

瀧田氏は旧ネットスケープ社時代からブラウザ開発に関与、現在Mozilla Japanの代表として各方面で活躍中。

小泉 彌和 (K sound design 代表取締役 兼 CEO)

携帯電話向けコンテンツの開発が近年の主要業務となっている。ここ数年の急成長ぶりは各方面から注目を集めている。昨年、携帯電話向け動画投稿サイト「Moo」を開発、サービス開始直後ながら多くの参加者を得るなど、新たなサービス領域への展開を積極的に進めている。

渡辺 保史 (智財創造ラボ シニアフェロー) : パネルディスカッション モデレータ

1965年北海道函館市生まれ。大学卒業後、新聞記者をへてフリーランスのライター、プランナーとして活動。情報デザインの発想や手法をいかした実践型の研究プロジェクトを手がけるほか、自宅のある函館市では、環境・文化マップをつくる「ハコダテ・スローマップ」や、都市再生ワークショップ「ハコダテ・スミカプロジェクト」などの地域活動を展開。武蔵野美術大学デザイン情報学科非常勤講師、函館大学客員教授。仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアムの設立に勉強会委員として参画。

鹿野 護 (WOW取締役・ビジュアルアートディレクター)

WOWは仙台に制作オフィスを持つCG映像制作会社。高水準の企業CMを多数制作しているほか、近年では人の動きに反応する動的なCG映像「リアルタイム・モーショングラフィックス」の上演にも取り組む。

鹿野氏は東北芸術工科大学で情報デザインを専攻、現在WOWのビジュアルアートディレクターとして制作活動の中心を担う。仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアムの設立に勉強会委員として参画。

木村 浩一郎 (アートクラフト・インターナショナル 代表取締役)

オリジナルブランド koichiro kimura art-craft japan デザイナー。家業である漆器から、食器、インテリア、ショップデザイン、建築、アートに至るまで、世界中のエクセレント企業と活動している。

「アバンギャルドでなければ面白くない」という氏のデザイン哲学とその作品、仙台発信ということが、テレビ・ラジオ・ファッション誌等を通じて紹介されるなど、国内外から最も注目されているクリエイターの一人。

菊地 敦己 (bluemark 代表)

アートディレクター/グラフィックデザイナー。近年の代表作としては青森県立美術館のサイン計画が有名。デザインを通じた地域のブランディング活動にも実績があり、香川ほか各地域で活動を展開している。デザイナーとしてだけでなくプロデューサーの視点でも活動している点が特長的。紙(印刷)を用いたリアルメディアの魅力についても、豊富な意見と制作事例がある。